10 月に秋田県手をつなぐ育成会による「がんばる障害者発見・発信事業」の
取材を受け、この度、12 月 12 日の秋田魁新報さんの朝刊に
鷹觜利美さんの記事が掲載されました。
この他、秋田市で配布しているフリーペーパー「マリマリ」さんにも
取材の様子が掲載される予定です。
皆さん、ぜひご覧下さい。

Spotlight

がんばる障害者を発見・発信事業

鷹觜（たかのはし） 利美（としみ）さん Vol.3

■ 昭和35年生まれ
■ 阿桜園（横手市）入所中

重度の知的障害でコミュニケーションは苦手だが、目で見て興味の湧いたものを絵に描くのが得意。興が乗れば何時間でも無心に画用紙に向かっている。東北障がい者芸術公募展入選など受賞歴も多い。

「消防車」

いきいきスポットライト

iki-iki Spotlight

がんばる障害者を発見・発信事業

鷹觜（たかのはし） 利美（としみ）さん Vol.3

■ 昭和35年生まれ
■ 阿桜園（横手市）入所中

重度の知的障害でコミュニケーションは苦手だが、目で見て興味の湧いたものを絵に描くのが得意。興が乗れば何時間でも無心に画用紙に向かっている。東北障がい者芸術公募展入選など受賞歴も多い。

人をほっこりさせる童画タッチの絵が得意

横手市の阿桜園では、100名ほどの知的障害のあるみなさんが入所支援を受けている。

そのうちの一人、鷹觜利美さんは平成2年に同園に入所した。

利美さんは今、絵を描くことが生きがいになっている。

クレヨンやマジックを使って描く利美さんの絵は、どことなく童画のような、ほのぼのとしたタッチが特徴。暖色系の色使いが目立ち、色彩も豊かだ。今回の取材では、利美さんのこれまでの作品の中からご自身のお気に入りの絵を用意していただいた。

阿桜園入所当時、利美さんは周りにあまり興味を示さず、自室にこもってばかりいた。どんなものに興味があるのだろうと施設職員が思案していたとき、画用紙を渡してみたら絵を描き始めた。以来30年、今では絵を描くことが利美さんの生きがいになっている。これまでに描き上げた絵は40～50点ほど。平成20年頃からは障害福祉関係の絵画展にもたびたび応募し、奨励賞等の受賞歴がある。

もっとも、利美さん自身は絵画展で入選受賞するといったことにはあまり関心がないらしい。もらった賞状なども自室にしまいこんでしまっているようだ。それよりも利美さんの励みになるのは、自分の描いた絵を直接誰かに褒められることだ。以前にも、絵が上手だと褒められたことがあって、それが本人にはとても嬉しかったようで、絵を描き続ける原動力になっている。

鷹觜さんの作品「獅子舞」

「カニ」

自分のペースで絵と向き合う充実した日々

絵を描くのは自分の気の向いた時だけだ。周りから絵を描こうと仕向けるようなことはしない。ただ、例えば秋になって木々の葉が色づく頃などに、それをじっと見入っている利美さんの様子に気づき、「紅葉の絵を描きたいんですね」と職員の側から絵を描く用意を整えることはある。いったん描き始めると、寝る間際まで無心に描き続ける。集中しているときは食事をとることも忘れてしまう。

利美さんは今年で60歳。大きな病気をすることもなくめでたく還暦を迎えた。絵を描くことが楽しい。自由に絵を描ける環境がある。利美さんは絵と向き合って充実した日々を送っている。

取材のカメラに、とてもいい笑顔を見せてくれた。絵を描いているときの利美さんの顔は生き生きと輝いている。

「消防車」

わたしたちはがんばるヒトを応援しています

株式会社 北都銀行
積水ハウス 秋田営業所
秋田トヨタ自動車
株式会社 タカヤナギ
イエローハットグループ 株式会社 アルビス
コンピュータスクール デュナミス
（順不同）

秋田県健康福祉部障害福祉課